



シンポジウム「イスラームと公共領域：東南アジアと中東の視点から」

ISEA総括シンポジウム

〔日時〕 2011年3月28日(月)13:00-18:00

〔場所〕 東京外国語大学AA研大会議室(303室) 東京都府中市朝日町3-11-1

イスラームは現在、11億人以上の信者を有し、世界で第二番目に人口の多い宗教として知られています。イスラームは全世界に広がっていますが、日本と関係の深い東南アジアでは、世界最多のムスリム(イスラーム教徒)人口を抱えるインドネシアをはじめ多数のムスリムが生活しています。今回のシンポジウムでは東南アジアにおけるイスラームの政治や社会への影響や相互関係について、人類学、歴史学、法学、社会学などの立場から専門家が報告し、また中東など他のイスラーム圏との比較なども検討する予定です。研究者の方はもちろん、東南アジアや中東あるいはイスラームに関心のある方であれば、どなたでも参加・聴講を歓迎いたします。

プログラム (※詳細は変更の可能性があります)

趣旨説明：床呂郁哉 (東京外国語大学・AA研)

報告1：ヴァンシャからバンサへ：「バンサ」という語の変遷にみる「民族」概念の系譜 青山亨 (東京外国語大学)

報告2：ジャバにおける地縁とイスラーム 塩谷もも (島根県立大学短期大学部)

報告3：東南アジア諸国の司法制度とイスラーム 今泉慎也 (アジア経済研究所)

報告4：ニュータウンのムスリム住民：マレーシアの首都郊外におけるスラウと宗教的ネットワーク 左右田直規 (東京外国語大学)

コメント 津田浩司 (東京外国語大学・AA研) / 酒井啓子 (東京外国語大学)

総合討論



本シンポジウムは、文部科学省委託事業・世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業「東南アジアのイスラーム(ISEA)プロジェクト」の成果公開の一端となる総括シンポジウムとして同「中東とアジアをつなぐ新たな地域概念・共生関係の模索」およびAA研基幹研究「人類学におけるマイクロ-マクロ系の連関」との共催で開催されるものです。

〔主催〕 世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業「東南アジアのイスラーム：トランスナショナルな連関と地域固有性の動態」

〔共催〕 世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業「中東とアジアをつなぐ新たな地域概念・共生関係の模索」
AA研基幹研究「人類学におけるマイクロ-マクロ系の連関」

〔問い合わせ先〕 ISEA事務局 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所内 tel: 042-330-5679 e-mail: isea@aa.tufs.ac.jp

